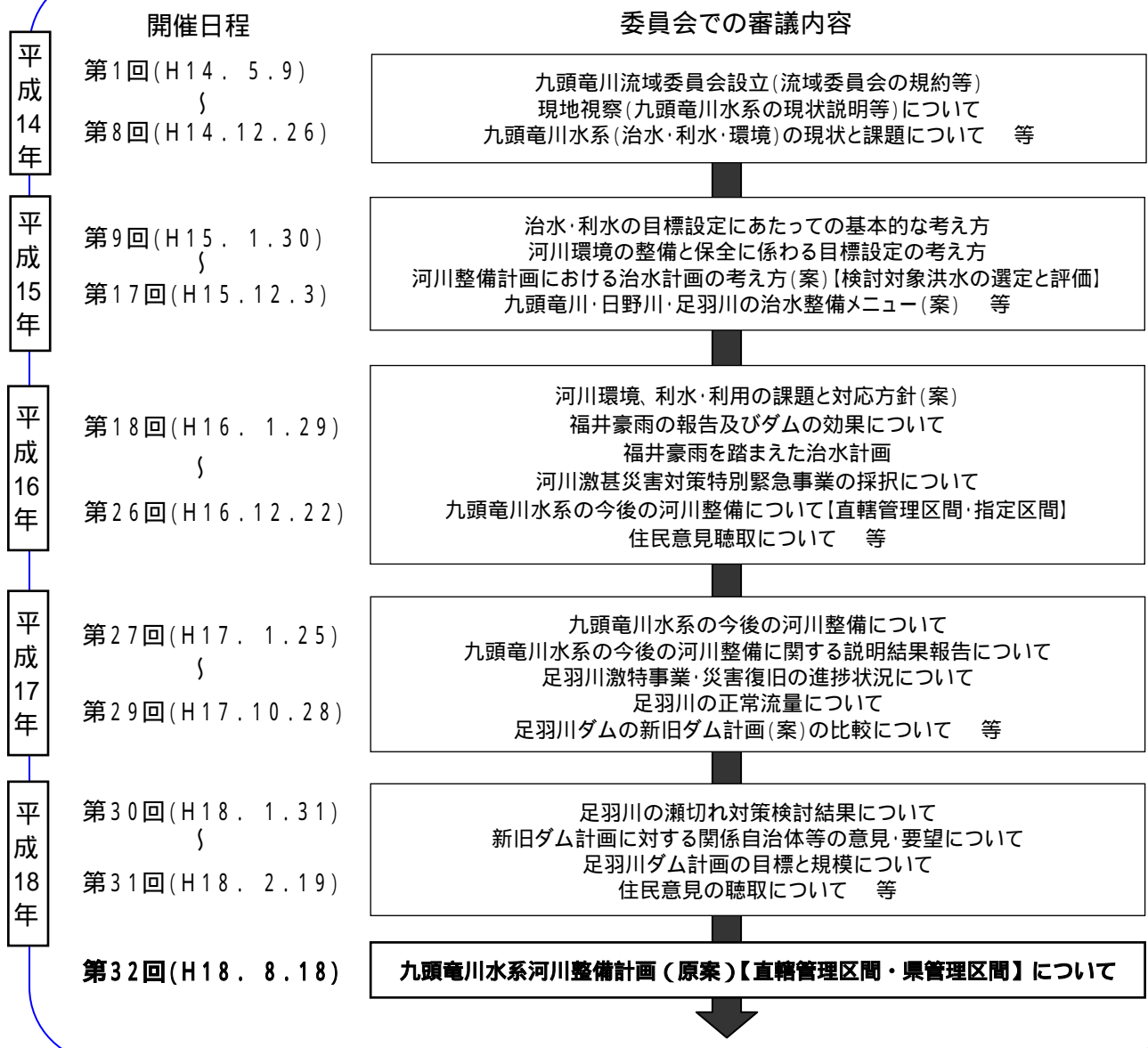


## 第32回流域委員会の審議骨子

第32回「九頭竜川流域委員会」が平成18年8月18日にユー・アイふくいで開催されました。



### これまでの九頭竜川流域委員会の経緯



## 第3 2 回流域委員会の審議骨子

当日は16名の委員が参加し、河川管理者から「九頭竜川水系河川整備計画（原案）」の説明がなされ、意見交換が行われました。

### 1. 九頭竜川水系河川整備計画（原案）[直轄管理区間]について

「九頭竜川水系河川整備計画(原案)」[直轄管理区間]に関して説明された主な内容は、以下に示すとおりです。

- (1) 河川整備計画策定の流れ
- (2) 流域の特性と課題
- (3) 目標と整備内容

以上の説明をされた後に、次のような質問や意見が出されました。

1. なぜ、導水路の計画が1条から2条（水海川からの導水路と、足羽川・割谷川・赤谷川からの導水路）に変更となったのか？  
総合的に判断してトータルコストはやや高くなるが、リスクの分散あるいは洪水調節機能を常時ある程度のレベルで確保できるという観点から2条案を採用した。
2. 河川整備計画期間中は1条（水海川からの導水路）ということだが、危機管理の面で大丈夫なのか？  
当面は、分水施設の上流に流木・土砂対策施設を設置し対処していく。
3. 洪水調節専用ダムでも、いったん洪水が起きればダムに水が貯まる。この湛水による環境への影響はないのか？  
環境に対しては、河川整備計画が策定され次第、環境影響評価法に基づくアセスメントを実施する。工事中あるいは完成後の影響についてしっかり評価し、必要な対策を行っていく。
4. 先行事例として、益田川ダムの状況を教えて欲しい？  
益田川ダムは試験湛水が終了し、暫定管理に移行している。洪水調節を数回実施した後の植生への影響についての詳細は把握していないが、いずれにしても大きな影響は出ていないと思われる。
5. 益田川ダムの上流には、常時水を貯めないダムとして比較的小規模な笹倉ダムが30年程度運用された実績がある。益田川ダムは、笹倉ダムと同じような形式であれば環境に対する影響等も比較的確認できているというプロセスを経てできている。益田川ダムの実績はこれからであるが、同じような形式のダムの経験というのは、それなりに蓄積されているのではないかと考えられる。
6. 足羽川ダムについては、ダムのつくり方や、貯水池となる部分の整備の仕方、維持管理のあり方を、これまでの事例を参考にしながら今後詳細に検討していく必要がある。
7. 国土交通省で打ち出している減災対策とは？  
今までは洪水氾濫そのものを発生させないように対策を行っていたが、これにつけ加えて、洪水氾濫が発生した場合でも、この氾濫域で被害を最小化する減災対策もあわせて行っていくというもの。

## 第32回流域委員会の審議骨子

8. 減災対策を今後20～30年かけてダム整備とあわせて行うことによって、ダムは必要なかったということにならば、もう一度謙虚になって考えてみることも必要である。
9. ダムの説明会等で使われる「苦渋の選択」という言葉をどのように捉えているのか？  
水没地域の方々にとっては、ある意味故郷をなくしてしまうことであり、そういうことを含めて住民の方々の苦悩や苦勞を酌みとって使われている言葉だと受け止めている。
10. 池田町の人々にとっては、ダム整備が進行することによって色々な苦しみが生じるかもしれないが、一歩ずつでも前進していきたい。
11. 福井豪雨のとき流木の大半が杉であったことから、環境影響評価をする場合は、ダム上流域の杉林の占める割合について調査すべき。  
福井豪雨後の流木・土砂量についての調査は実施している。今後の検討には、これらの調査結果をしっかりと反映させていきたい。
12. 福井豪雨のとき大量の流木が発生したのは、岩盤で表土が少ない所に杉を植栽したため根の張りが弱かったことが原因だったと考えられる。
13. 濁水は水質、農業、漁業等にも影響を与える。危機管理の項目の中に、洪水に関する取り組みのみならず濁水についても入れてみてはどうか。  
記述についてはもう一度検討する。
14. 福井豪雨を風化させないことが大切であり、環境学習の中に河川教育の推進ということも取り込んでいったらどうか。
15. 河道内の樹木は、ただ木を切るだけではまた生えてくる。管理していくには、その川の洪水の攪乱を利用していくことが重要である。
16. 足羽川ダムの整備は長期的な計画なので、住民意見聴取の時には全体像がわかるようにわかりやすく説明して欲しい。



第32回流域委員会の審議状況

## 第3 2 回流域委員会の審議骨子

### 2. 九頭竜川水系河川整備計画(原案)[県管理区間]について

「九頭竜川水系河川整備計画(原案)」[直轄管理区間]に関して説明された主な内容は、以下に示すとおりです。

- (1) 下流部ブロックについて
- (2) 中流部ブロックについて
- (3) 上流部ブロックについて
- (4) 日野川ブロックについて
- (5) 足羽川ブロックについて

以上の説明をされた後に、次のような質問や意見が出されました。

- 17. 今後の方針として市民・NPO等と連携・協働していくのであれば、予算的な面も整備計画の中に盛り込んでいったらどうか。  
予算については整備計画とまた別の問題と考えている。
- 18. 現在あるダムの堆砂に対して、今後どのように取り組んでいくのか？  
ダムの堆砂量については毎年状況を調査しており、必要とあれば浚渫等の対策を実施していく。
- 19. 河道掘削のときに発生する掘削土量はどのように処分するのか？  
掘削土量については、埋め立てや圃場整備等の公共事業への有効利用を考えている。そのためには今後整備スケジュールとの調整が必要となる。
- 20. 県管理区間で対象となっている河川は、今後20~30年で改修が可能なのか？  
今回対象となる河川は、今の投資規模が続くことを前提に設定しており可能と考えている。
- 21. ダムを整備しても内水被害は解消されないので、早急な内水対策をお願いしたい。河川改修以外の内水対策を教えて欲しい？  
狐川では、河川管理者、下水道管理者、流域内の住民とで内水対策を話し合う会をつくった。その結果、ポンプの増設、道路下への貯留管の設置、公園を下げた貯水池の整備、各戸貯留に対する助成金制度等を行っていく。
- 22. 水質については「現状維持」ではなく、今後の下水道整備の進捗や各自治体との連携を考えていくのであれば、もう少し明るい展望を予測した部分を入れてもいいのではないか。  
記述についてはもう一度検討する。
- 23. 県管理河川の治水安全度の目標は、今後20~30年を対象にしたものなのか、それとも最終的なものなのか？  
治水安全度については、現在の流下能力と資産・被害状況等を考慮して、当面30年間で可能な限り上げた場合の目標と理解してもらいたい。
- 24. 今後、河川整備計画を具体化していくときには、住民と相互的なコンセンサスを図っていくのか？  
計画を具体化していく上で、説明会を開催するなどして意見を聞いていきたいと考えている。

## 第3 2 回流域委員会の審議骨子

25. 県管理区間の計画流量配分図は、長期的な計画ではなく、整備計画段階での計画流量か？  
今回の整備計画対象期間内における計画流量を示している。
26. 既設ダムの治水容量、利水容量等を弾力的に運用することによって、慣行水利権にとらわれることなく、川に水を流すことができるのではないか。  
既設ダムを有効活用していくためにも、今後更に調整していく。
27. もともとアユは日本海から遡上してきていたが、今は河川横断工作物で仕切られているため、やむなく個々別に放流している。河川整備計画には、魚が自由に遡上・降下できるように具体的に「魚道を整備する」という記述が欲しい。  
目標では抽象的な表現をしているが、実施に関する事項では具体的な内容として「現存する床止め工に関しては、魚類の移動の可否状況を調査し、改善が必要な施設については魚道の設置・改築等を行います。」と記述している。
28. 魚道は整備するだけでなく、それが十分機能を発揮しているかの評価と、機能を発揮していない所には改善が必要である。併せて、魚が産卵をして再生産できる場をどうやって保全・創出していくかも重要である。
29. 川の水量の維持については、「調整する」というのもわかるが「川に水を流す」という積極的な表現にすることはできないのか。
30. 川が川であるための流量を確保できるように水利権の更新時に見直していくべき。
31. 水利権については、利用者間である程度弾力的な考えをもって調整していくべき。
32. 川の水は、人工的なものに囲まれて流れたときと、自然に囲まれて流れてきたときでは、いくら化学的な検査結果が同じでも、感覚的には違うものである。こういった要素も水質保全には重要である。
33. 福井豪雨のとき流木が大量に流出したのは山を放置していたからである。再び山の管理に意欲を持たせるためには国の対応が必要である。それと同時に、大雨が降る前に足羽川筋の空き地を広葉林に戻すことも必要である。
34. 足羽川ダムから足羽川本流までの区間については、洪水後の放流水に耐えられるよう護岸整備が必要である。
35. 旧美山町の集落の中には、農業用水や生活用水を部子川の水だけを頼りにしている所もある。ダムの整備によって水環境に悪影響が出ないように配慮が必要である。
36. 川の活動をしていて、「地域住民と密接な関わりのある河川については、住民とともに計画の検討、実施、見直しを行う等、積極的に意見交換を実施し、協働して川づくりを進めていきます。」が河川整備計画の中で本当に重要な点だと思う。住民意見聴取ではこの点を強調して説明して欲しい。

### 3. 九頭竜川水系河川整備計画（原案）[直轄管理区間・県管理区間]について

九頭竜川水系河川整備計画（原案）[直轄管理区間・県管理区間]については、出席委員から了承された。